

平成28年度 自己評価書

学校名	和歌山市立木本小学校
校長氏名	岡部 美代恵
作成日	平成29年 1月30日

1 教育目標

心身ともにたくましく、豊かな人間性を身につけ、自ら学ぶ子を育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	○保護者や地域の各種団体との連携を図り、開かれた学校づくりに努める。 ○学校行事等に、保護者や地域の積極的な参加を促す。	○児童の道徳的実践力を高めるため、教育活動全体で道徳教育の充実を図る。 ○自他の生命や人権を尊重する態度及び心情を育てる。	○体験的な学習や問題解決学習を積極的に授業に取り入れる。 ○学級の実態に応じて学習展開を工夫し、児童が「できた・わかった」と実感できる授業作りを目指す。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを家庭だけでなく地域にも配布するとともに、ホームページにも掲載し、学校の取り組みについての周知に努めた。 ・地域の方と育友会との交流の場を学校で設定し、学校と育友会・地域との連携を図った ・生活科や総合的な学習の時間に、地域のかたに指導いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員と全児童で「あいさつ運動」を実施した。 ・いじめ・不登校委員会を定期的に開催(9回/年)し、問題の早期発見・早期解決に全教職員で取り組んだ。 ・いじめ問題に関する校内研修を実施した。 ・平和学習や人権学習は学年で共通教材を用い、学習後の児童の様子を交流した。 ・元気大作戦で「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、生活習慣の改善に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内学力調査(2回/年)を実施し、各学年や学校の課題について交流した。 ・国語科を中心とした研究・研修により、教員の指導力の向上と授業改善を図った。 ・「のびっこタイム(錬成タイム)」の効率的な活用について、現職教育で検討・協議した。また、うち読コーナーの充実を図った。 ・「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習の定着を図った。
取組の成果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページで行事予定を知らせるとともに、各行事の際は自治会等にも直接お知らせすることで地域の方に多数ご来校いただくことができた。しかし、周知が十分できなかった行事もあった。 ・生活科の遊びの指導に地域の方に来ていただくのは、恒例となりつつあるので、児童もたのしみにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」に取り組むことにより、アンケートの結果、挨拶に対して肯定的に答えた児童が約8割いた。 ・元気大作戦の1学期の集計結果が1年生より2年生の方が就寝時間等、本校が推奨している時間に近いので、取組成果が出ていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休憩後の15分を基礎学力定着のため「のびっこタイム」として、読書や漢字・計算に取り組んでいる。その成果もあり、漢字の書き取りや基本的な四則計算については概ね定着している。また、児童アンケートによると「毎日の勉強が分かる」という質問に肯定的に回答した児童の割合が9割を超えている。しかし、「自分の考えを発表できる」という質問に関しては、肯定的な回答は6割強にとどまる。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を組織し、学校行事について意見徴収し、学校・保護者・地域との連携についての具体的方策について協議し実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も全教員・全児童による「あいさつ運動」に取り組む。あいさつのマナーについての指導も行っていく。 ・人権学習は授業参観で公開しているが、平和学習については、校内での取り組みになっているので、家庭への周知も図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も国語科を中心に研究を進めていく。本校児童に付けたいことからと具体的方策について今年度中に再精査し、実効性のあるものにしていく。 ・家庭学習の充実について、学年間での共通理解を図り、保護者への周知について学年・学校全体で行っていく。

3 その他の課題

・ゲームやタブレットの使用時間が長い。そのため、就寝時間が遅くなっている児童がおり、その中には、遅刻や、学習に集中できていない様子が見られる。

・語彙が少なく、語彙を文章や表現に活用することに課題がみられる。

・漢字練習やテストでは正しい漢字が書けていても、作文や普段使うワークシート等に既習漢字を活用できていないことが多い。

・算数の問題で、答えがわかっているが、その解答を導き出すための説明を文章で表したり、言葉にしたりすることが苦手な児童が多い。